

授業科目名	日本語教育演習 I	単位数	1単位
担当教員名	中野二郎・山本晃彦	担当形態	クラス分け
実務内容 (実務家教員の場合)	本科目は日本語教育現場に則した指導内容であり、日本語教育現場、日本語教師養成経験のある教員が実践的な視点から様々な教授法を用いて指導する。		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 授業のデザイン、練習方法など実際に授業を行うための具体的な手法を学び、教育実習に臨む準備を整える。 (2) 音声言語の特徴を知り、技能別(会話、聴解、発音)に教授の際に必要な技術や考え方を共有する。 (3) 日本語教育における初級と中上級の違いを概観し、授業を実施する際の留意点を知る。 (4) 教育実習に向けて、初級文型の導入・練習の方法を知るだけでなく、実践して各自学びを得る。			
授業の概要			
日本語教育関連科目(特に「日本語教授法」)で学んだ知識に基づき、実際に授業を実施するための手法を学ぶ。初級レベルはもちろん、中級レベル以上の音声言語に関わる科目(会話、発音、聴解)で学習者のレベル、ニーズ、クラスサイズ等の条件を想定しながら授業デザインのシミュレーションを行う。教師からの示唆もあるが、受講者自身の考察やグループワークを通しての気づきなどを重視して授業をすすめる。また、教育実習に向けて、授業の計画(教案の書き方)、授業のすすめ方を学び、実際にやってみる。			
関連科目:「日本語教授法」を履修しスクーリング受講していること。「日本語教育」、「言語学」、「日本語教授法」、「日本語学I」が関連する。この科目学修後に「日本語教育実習」を履修することを前提とする。			
授業計画			
※両日ともアクティブラーニングの手法を用いて実施			
(1日目)			
ガイダンス(この授業の目的と心構えを確認)			
第1回 アイスブレイキングI:「音声言語」と「文字言語」の違いについてグループで話して発表。			
第2回 用語の整理:この授業で用いるキーワードについて、理解を深める。 日本語教師の務め、資質や能力とは何か、目的・対象別日本語教育法、異文化コミュニケーション、異文化理解能力			
第3回「会話を教える」解説&タスク① 談話理解、受容・理解能力			
第4回「会話を教える」解説&タスク② 談話理解、受容・理解能力			
第5回「各種練習の指導」解説&タスク① 音韻・音声			
第6回「各種練習の指導」解説&タスク② 学習ストラテジー			
第7回 授業デザインI『みんなの日本語 初級I』某課で実践練習① 日本語教育プログラムの理解と実践、授業計画			
第8回 授業デザインI『みんなの日本語 初級I』某課で実践練習② 日本語教授法、教材分析、教材開発 ※グループワークで反復練習、代入練習、変換練習、FBも実践する。			
(2日目)			
1日目の実践に対するフィードバック			
第9回「中級レベルの教育」解説&タスク① 日本語教育におけるICT活用			
第10回「中級レベルの教育」解説&タスク② 著作権について			
第11回「コミュニケーション能力を育てる指導」解説&タスク① 言語学習、言語運用能力、コミュニケーションストラテジー、コミュニケーション教育			
第12回「コミュニケーション能力を育てる指導」解説&タスク② 対人関係能力			
第13回 授業デザインII『みんなの日本語 初級I』某課で実践練習① 教室・言語環境の設定			
第14回 授業デザインII『みんなの日本語 初級I』某課で実践練習② 評価法、授業分析・自己点検能力			
第15回 2日間のふりかえり グループで話した後成果を全体で共有 社会文化能力 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
ドリルの練習、話し合い等はできる限り、グループワーク等アクティブ・ラーニングの手法を用いて実践を行うので、積極的な取り組みを期待する。			
テキスト			
(1)『新・はじめての日本語教育2 増補改訂版』アスク出版 (2)『みんなの日本語初級I 本冊 第2版』スリーエーネットワーク			
参考書・参考資料等			
(2010)『みんなの日本語初級I 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 978-4-88319-160-4 (2016)『みんなの日本語初級I 翻訳・文法解説 英語版』スリーエーネットワーク 978-4-88319-604-3 (2016)『みんなの日本語初級I 書いて覚える文型練習帳』スリーエーネットワーク 978-4-88319-607-4			
学生に対する評価			
スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)			